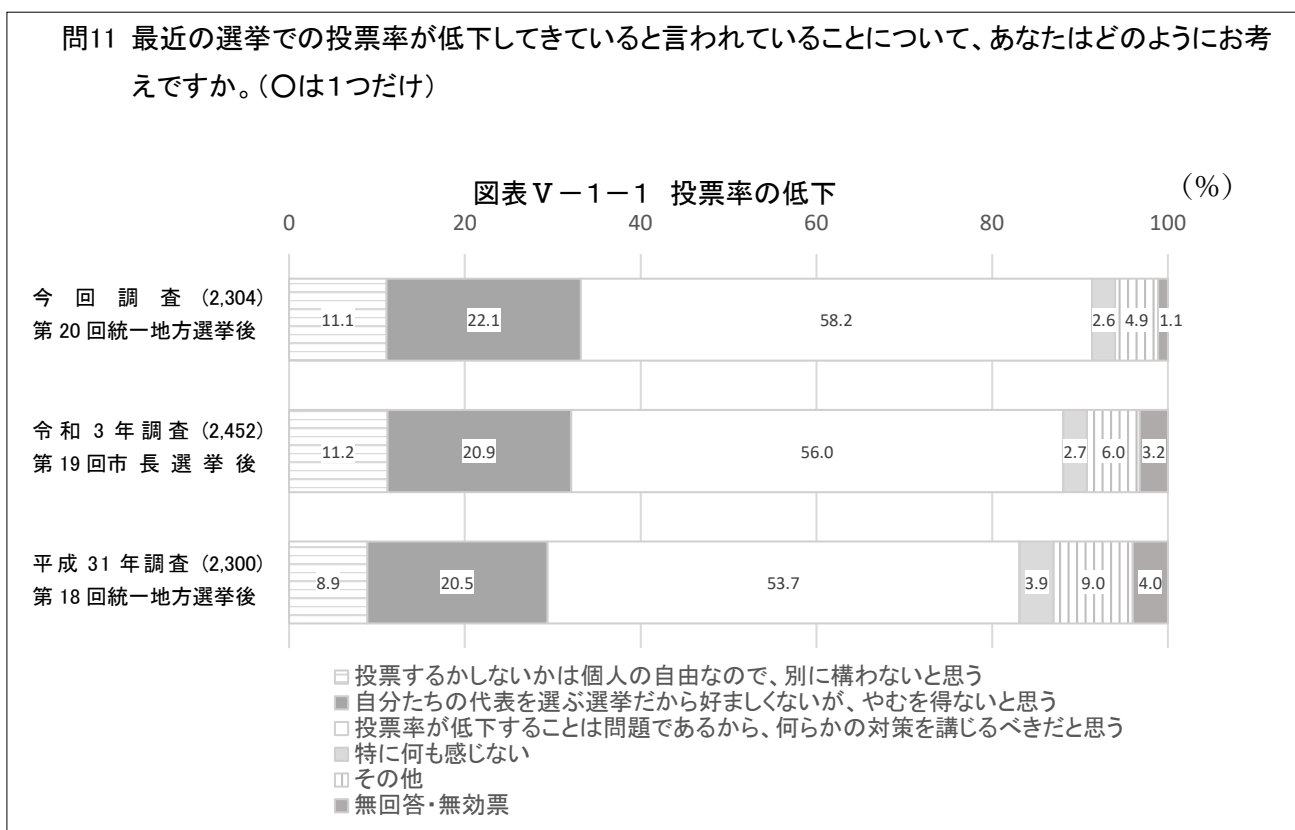


V 投票率や制度の改善に関する意識

1 投票率の低下

◇ 「投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講じるべきだと思う」が 58.2%

問11 最近の選挙での投票率が低下してきていると言われていることについて、あなたはどのようにお考えですか。(〇は1つだけ)



最近の選挙での投票率の低下について聞いたところ、「投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講じるべきだと思う」が 58.2%と最も多く、次いで「自分たちの代表を選ぶ選挙だから好ましくないが、やむを得ないと思う」(22.1%)、「投票するかしないかは個人の自由なので、別に構わないと思う」(11.1%) などとなっている。

令和3年調査(第19回 市長選挙後)と比較すると、「投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講じるべきだと思う」(58.2%)は、前回(56.0%)より2.2ポイント増加している。(図表V-1-1)

性・年齢別にみると、「投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講じるべきだと思う」は男性では「60代」「70歳以上」(67.2%)、女性では「60代」(66.1%)で最も多くなっている。(図表V-1-2)

投票参加別にみると、「投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講じるべきだと思う」は「投票した」(64.8%)の方が、「投票しなかった」(46.2%)より18.6ポイント高くなっている。一方、「自分たちの代表を選ぶ選挙だから好ましくないが、やむを得ないと思う」は「投票しなかった」(25.0%)の方が、「投票した」(20.5%)より4.5ポイント高く、「投票するかしないかは個人の自由なので、別に構わないと思う」は「投票しなかった」(16.8%)の方が、「投票した」(8.0%)より8.8ポイント高くなっている。(図表V-1-2)

図表V-1-2 投票率の低下(性・年齢別、投票参加別)

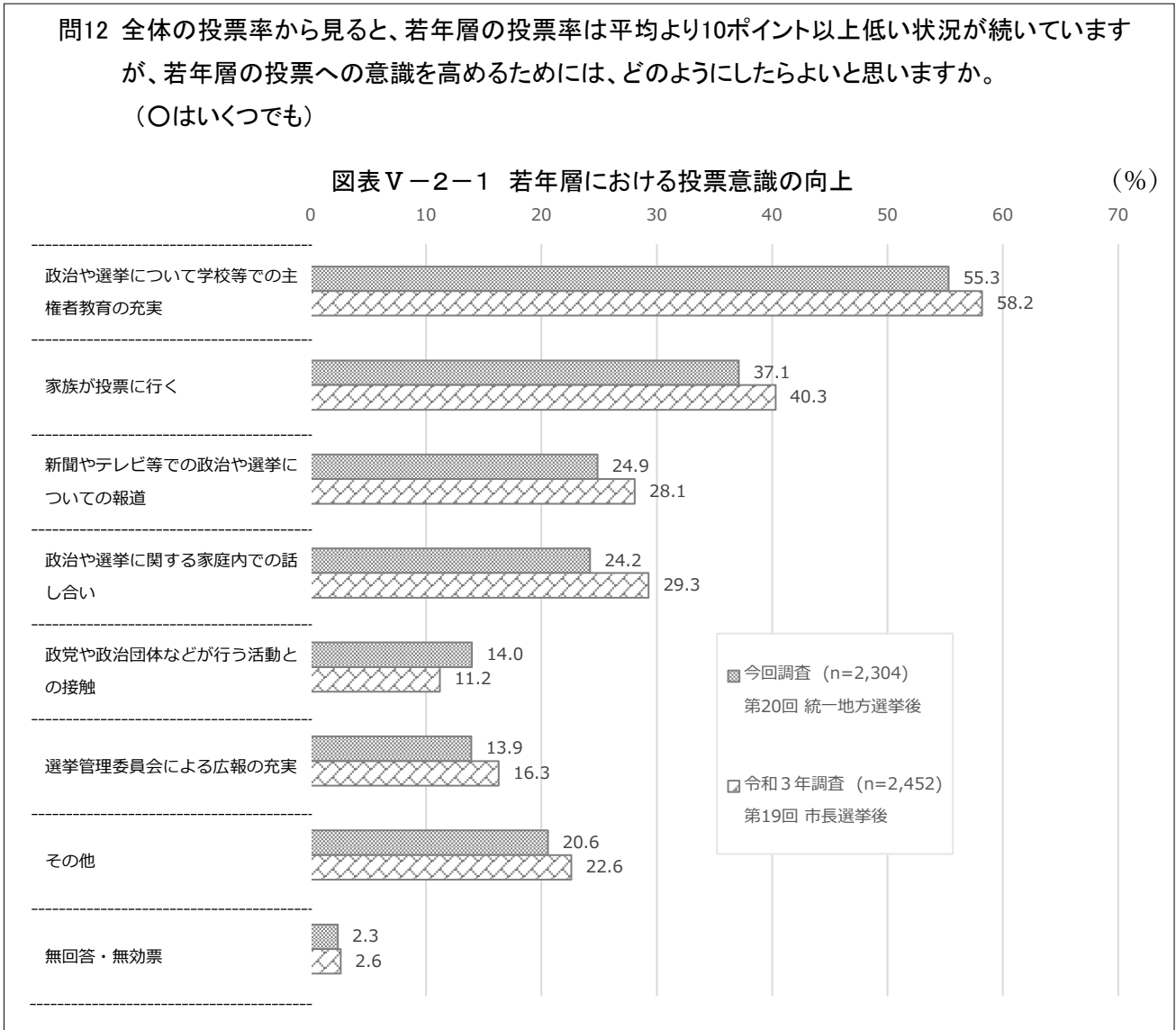
(%)



2 若年層における投票意識の向上

◇「政治や選挙について学校等での主権者教育の充実」が55.3%

問12 全体の投票率から見ると、若年層の投票率は平均より10ポイント以上低い状況が続いています
が、若年層の投票への意識を高めるためには、どのようにしたらよいと思いますか。
(〇はいくつでも)

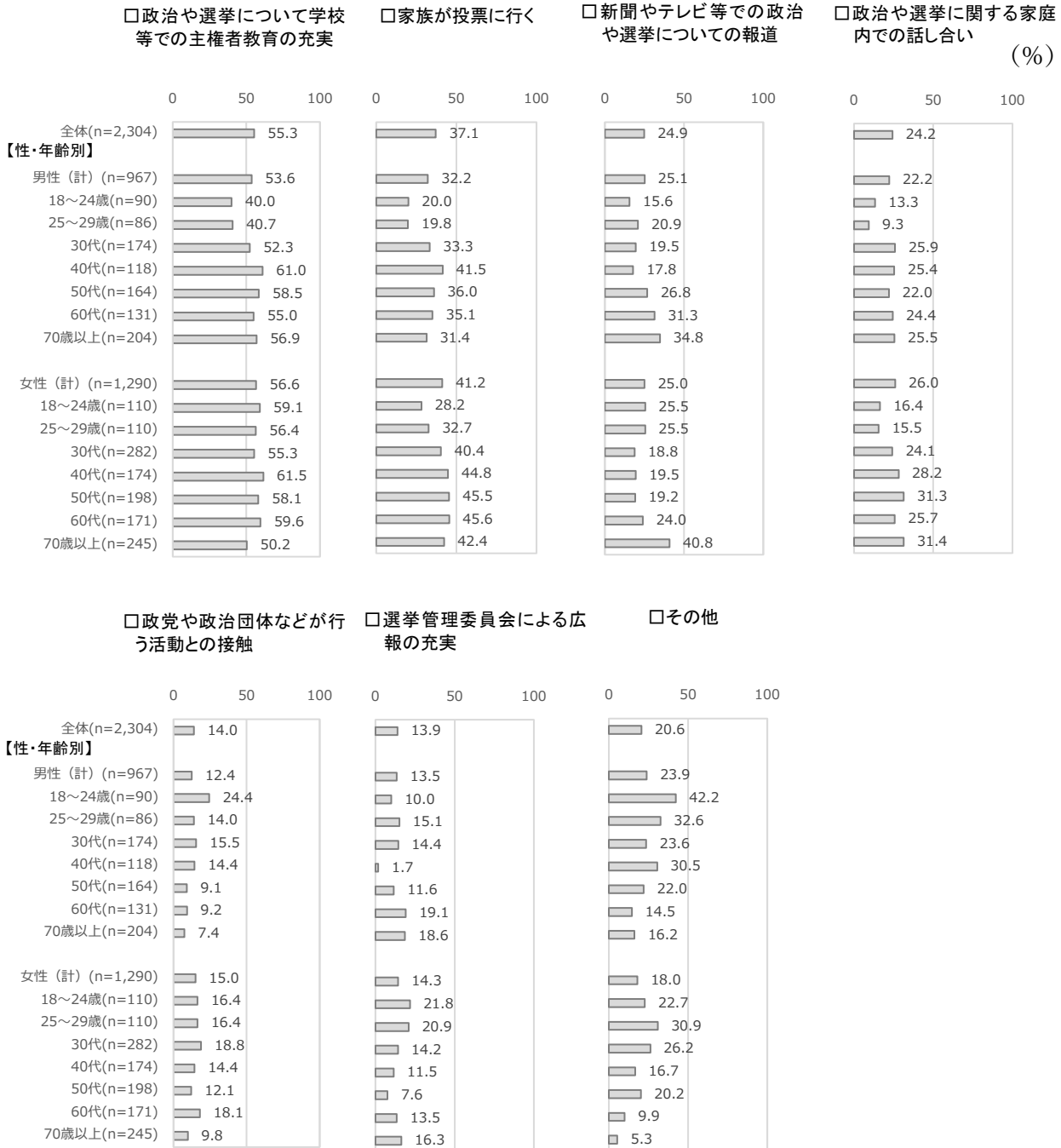


若年層における投票意識の向上について聞いたところ、「政治や選挙について学校等での主権者教育の充実」が55.3%で最も多く、次いで「家族が投票に行く」(37.1%)、「新聞やテレビ等での政治や選挙についての報道」(24.9%)の順となっている。

前回調査より低下した項目が多いが、「政党や政治団体などが行う活動との接触」(14.0%)のみ前回(11.2%)から2.8ポイント増加した。(図表V-2-1)

性・年齢別にみると、「政治や選挙について学校等での主権者教育の充実」は男性では「40代」(61.0%)、女性では「40代」(61.5%)で最も多くなっている。(図表V-2-2)

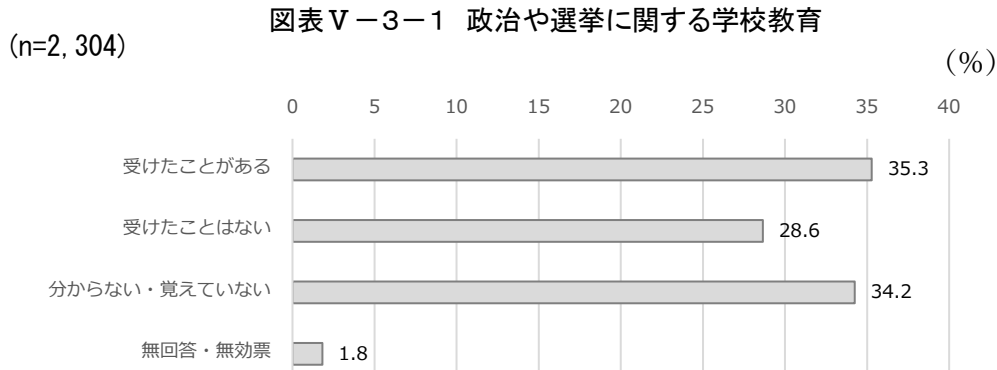
図表V-2-2 若年層における投票意識の向上(性・年齢別)



3 政治や選挙に関する学校教育

◇「受けたことがある」が 35.3%

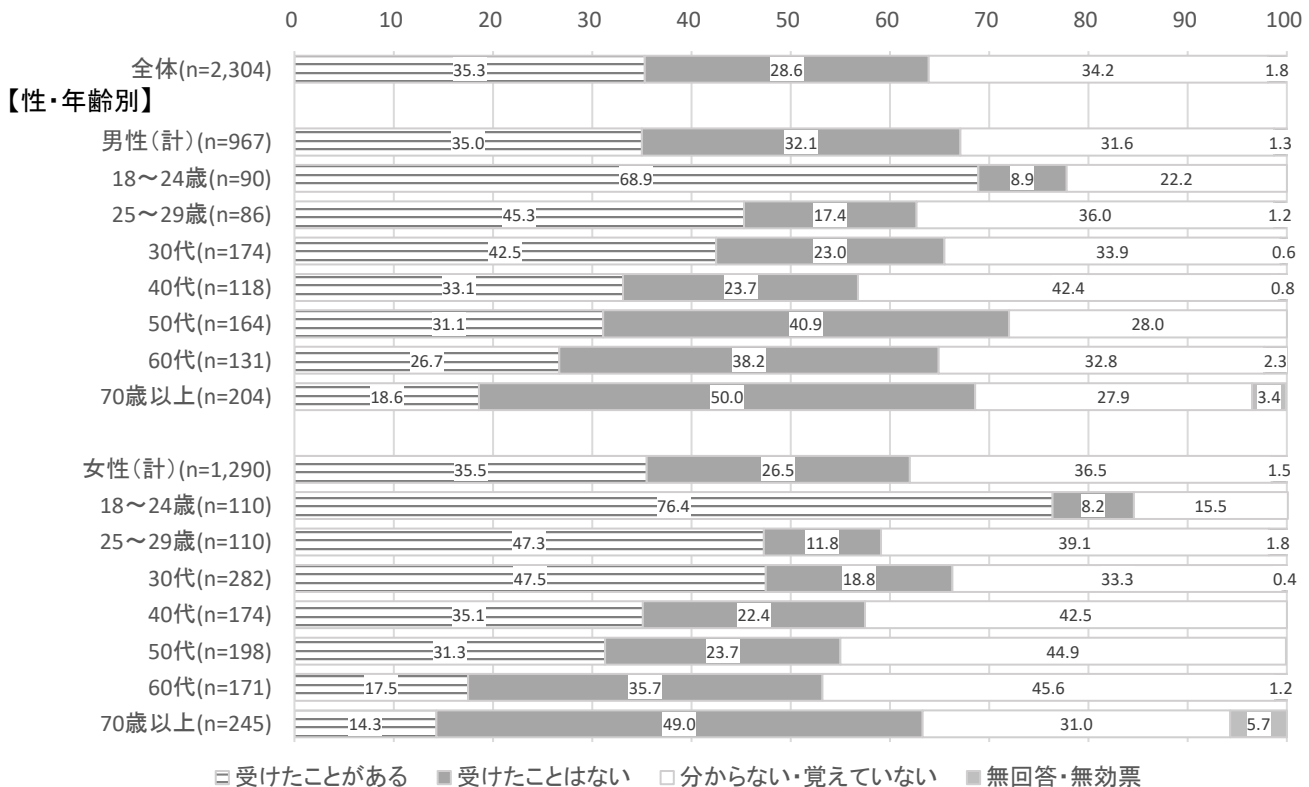
問13 あなたは学校教育で、以下に示すような、政治や選挙に関する授業などを受けたことがありますか。(〇は1つだけ)



政治や選挙に関する学校教育について聞いたところ、「受けたことがある」が 35.3%で最も多く、次いで「分からない・覚えていない」(34.2%)、「受けたことはない」(28.6%)の順となっている。(図表V-3-1)

性・年齢別にみると、「受けたことがある」は男性では「18～24歳」(68.9%)、女性では「18～24歳」(76.4%)で最も多くなっている。(図表V-3-2)

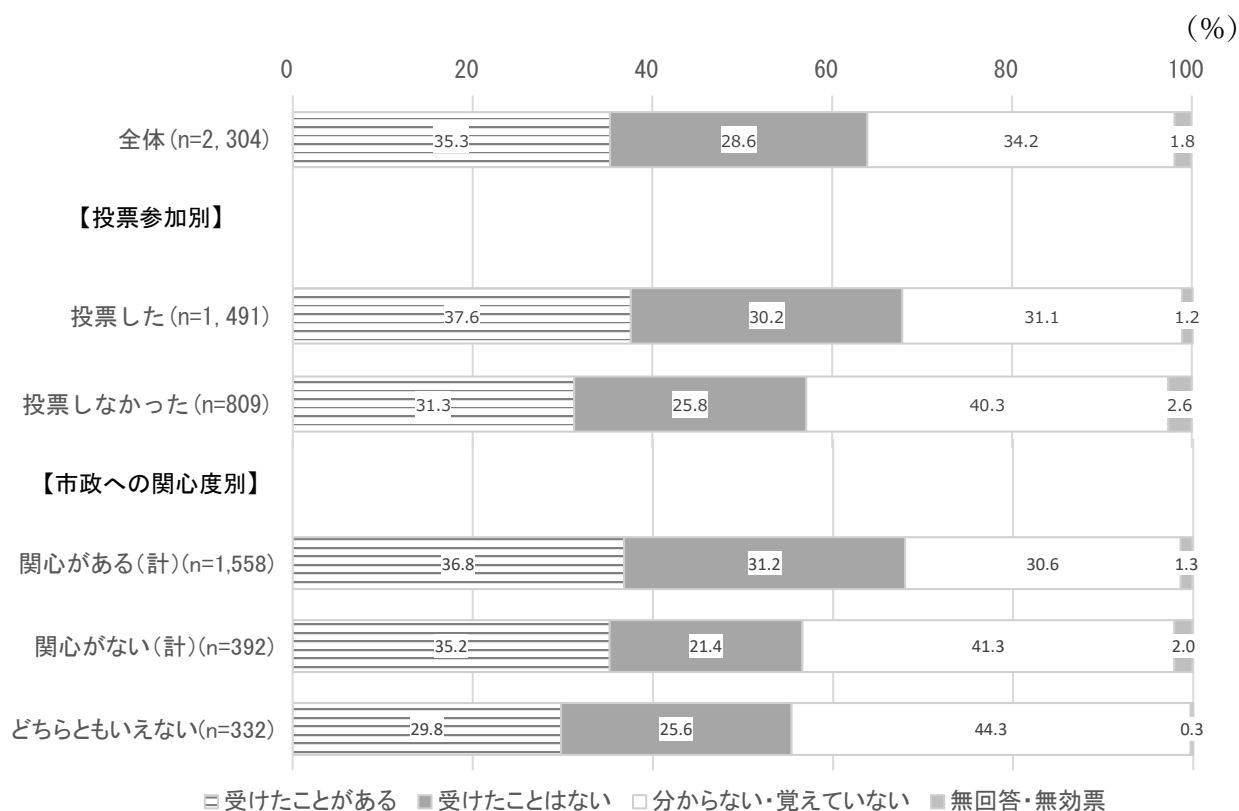
図表V-3-2 政治や選挙に関する学校教育(性・年齢別) (%)



投票参加別にみると、「受けたことがある」は、「投票した」(37.6%)が「投票しなかった」(31.3%)より6.3ポイント高くなっている。

市政への関心度別でみると、「受けたことがある」、「受けたことはない」いずれも、「関心がある(計)」の方が高くなっている。(図表V-3-3)

図表V-3-3 政治や選挙に関する学校教育(投票参加別、市政への関心度別)



4 学校教育と投票行動の関連性

◇「繋がらなかった」が 38.5%

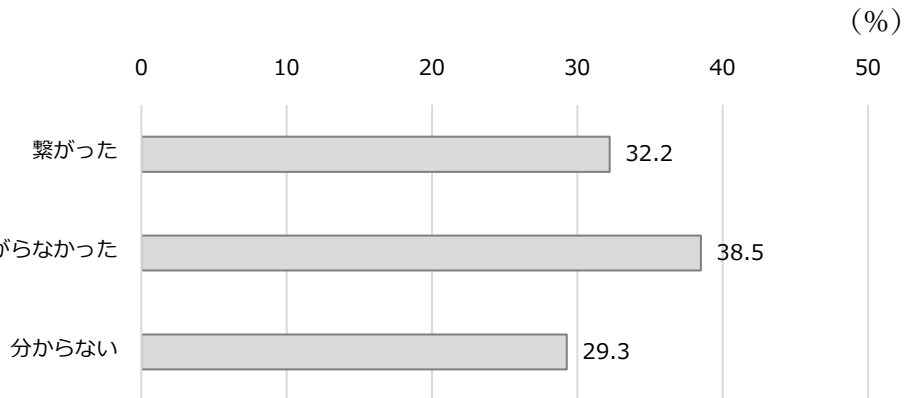
(問13で「1 受けたことがある」とお答えの方に)

問13-1 政治や選挙に関する授業などを受けたことは、今回の選挙での投票行動に繋がりましたか。

(○は1つだけ)

(n=813)

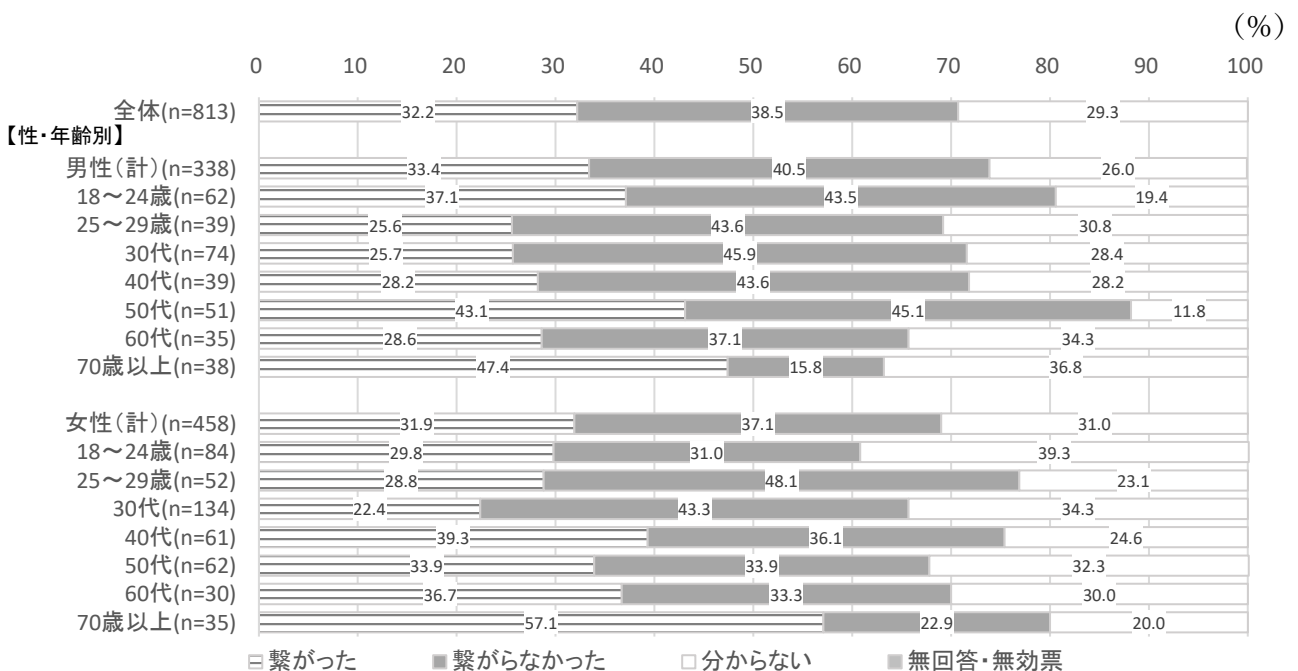
図表V-4-1 学校教育と投票行動の関連性



政治や選挙に関する学校教育について「受けたことがある」と答えた方(813人)に、学校教育と投票行動の関連性について聞いたところ、「繋がらなかった」が38.5%で最も多く、次いで「繋がった」(32.2%)、「分からない」(29.3%)の順となっている。(図表V-4-1)

性・年齢別にみると、「繋がらなかった」は男性では「30代」(45.9%)、女性では「25~29歳」(48.1%)で最も多くなっている。(図表V-4-2)

図表V-4-2 学校教育と投票行動の関連性(性・年齢別)

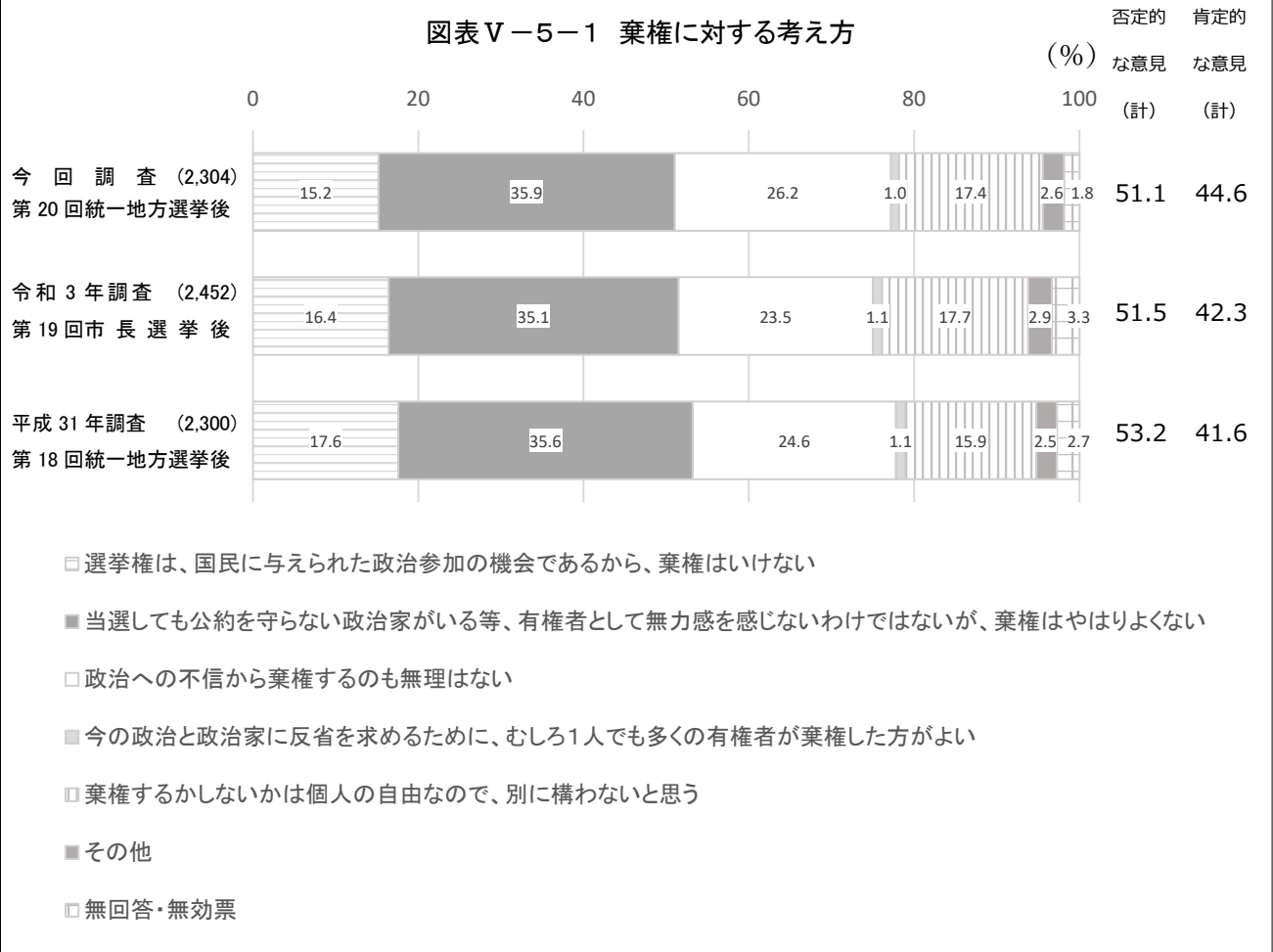


5 棄権に対する考え方

◇「当選しても公約を守らない政治家がいる等、有権者として無力感を感じないわけではないが、棄権はやはりよくない」が 35.9%

問14 棄権することについて、あなたの考えは次のどれに一番近いですか。(○は1つだけ)

図表V-5-1 棄権に対する考え方



棄権することについて聞いたところ、「当選しても公約を守らない政治家がいる等、有権者として無力感を感じないわけではないが、棄権はやはりよくない」が 35.9%で最も多く、次いで「政治への不信から棄権するのも無理はない」(26.2%)、「棄権するかしないかは個人の自由なので、別に構わないと思う」(17.4%)の順となっている。

棄権に対して「当選しても公約を守らない政治家がいる等、有権者として無力感を感じないわけではないが、棄権はやはりよくない」(35.9%)と「選挙権は、国民に与えられた政治参加の機会であるから、棄権はいけな」(15.2%)を合わせた『否定的な意見(計)』は、51.1%となった。一方、「政治への不信から棄権するのも無理はない」(26.2%)と「棄権するかしないかは個人の自由なので、別に構わないと思う」(17.4%)と「今の政治と政治家に反省を求めるために、むしろ1人でも多くの有権者が棄権した方がよい」(1.0%)を合わせた『肯定的な意見(計)』は、44.6%となった。

令和3年調査(第19回 市長選挙後)と比較すると、棄権することについて『否定的な意見(計)』は減少しており、『肯定的な意見(計)』は増加している。(図表V-5-1)

性・年齢別にみると、「当選しても公約を守らない政治家がいる等、有権者として無力感を感じないわけではないが、棄権はやはりよくない」は男性では「60代」（45.0%）、女性では「60代」（48.0%）で最も多くなっている。（図表V-5-2）

投票参加別にみると、『否定的な意見（計）』は、「投票した」（63.8%）が「投票しなかった」（27.7%）より36.1ポイント高くなっている。（図表V-5-2）

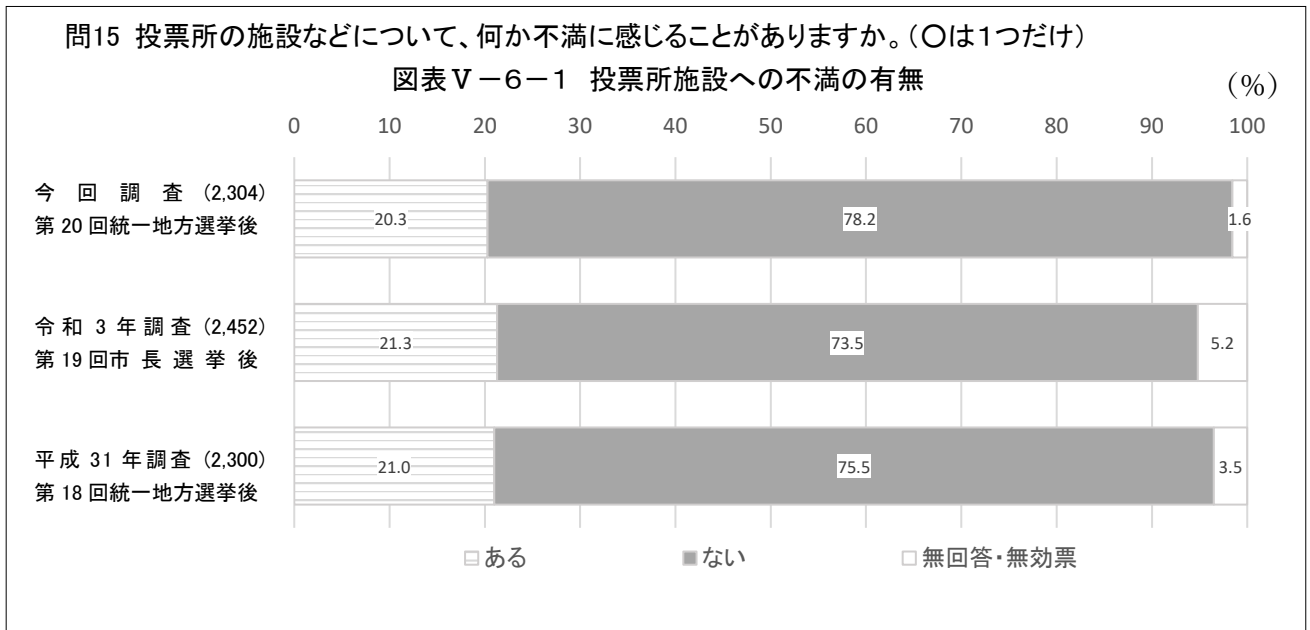


- 選挙権は、国民に与えられた政治参加の機会であるから、棄権はいけな
- 当選しても公約を守らない政治家がいる等、有権者として無力感を感じないわけではないが、棄権はやはりよくない
- 政治への不信から棄権するのも無理はない
- 今の政治と政治家に反省を求めるために、むしろ1人でも多くの有権者が棄権した方がよい
- 棄権するかしないかは個人の自由なので、別に構わないと思う
- その他
- 無回答・無効票

6 投票所施設

(1) 投票所施設への不満の有無

◇ 不満がない人は 78.2%、不満がある人は 20.3%



投票所の施設などについての不満を聞いたところ、不満が「ある」が 20.3%、「ない」が 78.2%となっている。

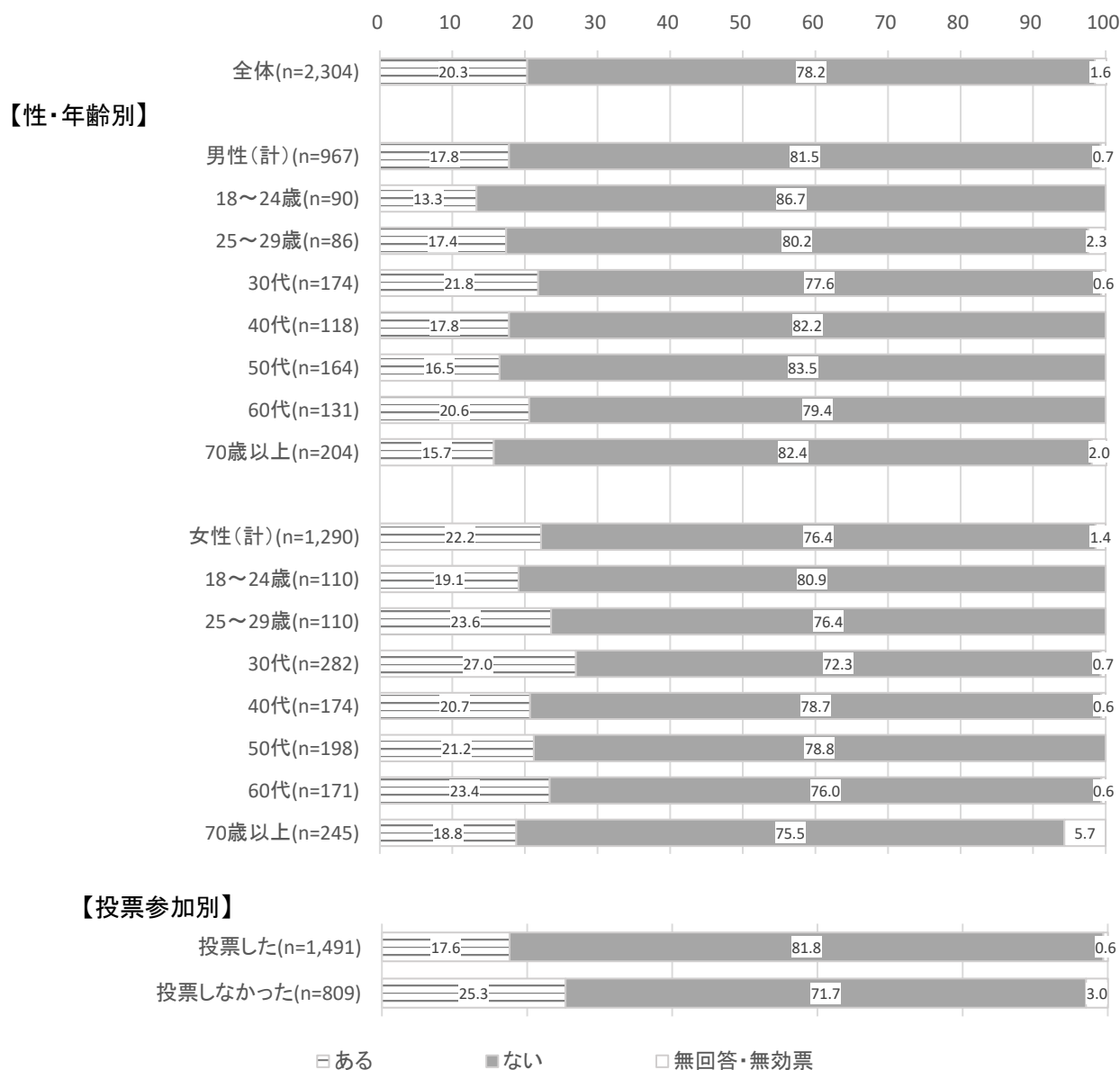
令和3年調査(第19回 市長選挙後)と比較すると「ある」(20.3%)は前回(21.3%)より1.0ポイント減少している。(図表V-6-1)

性・年齢別にみると、「ない」は男性では「18～24歳」（86.7%）、女性では「18～24歳」（80.9%）で最も多くなっている。（図表V-6-2）

投票参加別にみると、不満が「ある」は投票した人（17.6%）の方が、投票しなかった人（25.3%）より7.7ポイント低い。（図表V-6-2）

子育て状況別にみると、未就園児がいる方は不満が「ある」が31.7%と高くなっている。（図表V-6-2）

図表V-6-2 投票所施設への不満の有無（性・年齢別、投票参加別、区別、子育て状況別）（%）





(2) 投票所施設への不満点

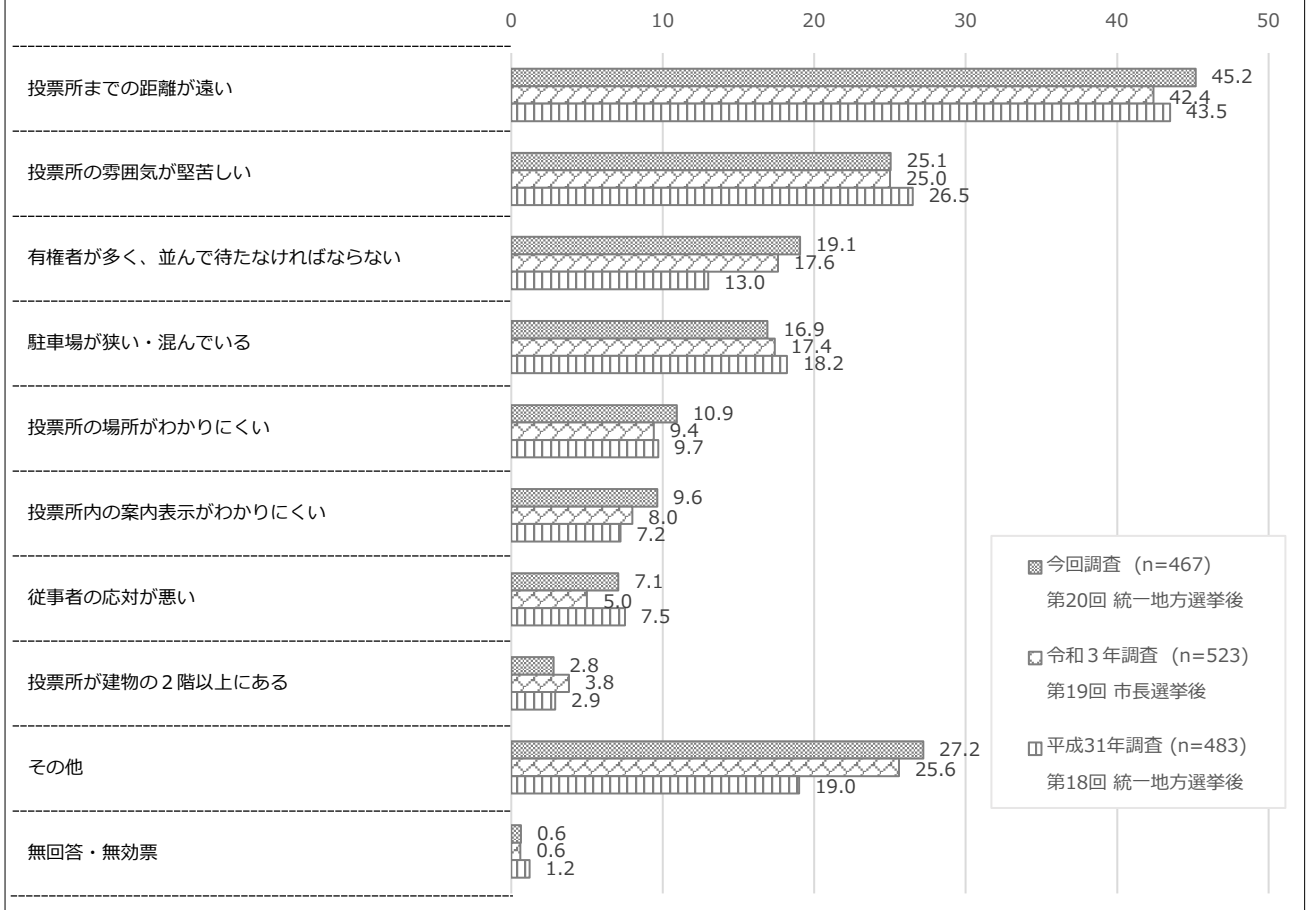
◇「投票所までの距離が遠い」が 45.2%

(問15で「1 ある」とお答えの方に)

問15-1 あなたが不満に思うことを、次の中からすべてあげてください。

図表 V-6-3 投票所施設への不満点

(%)

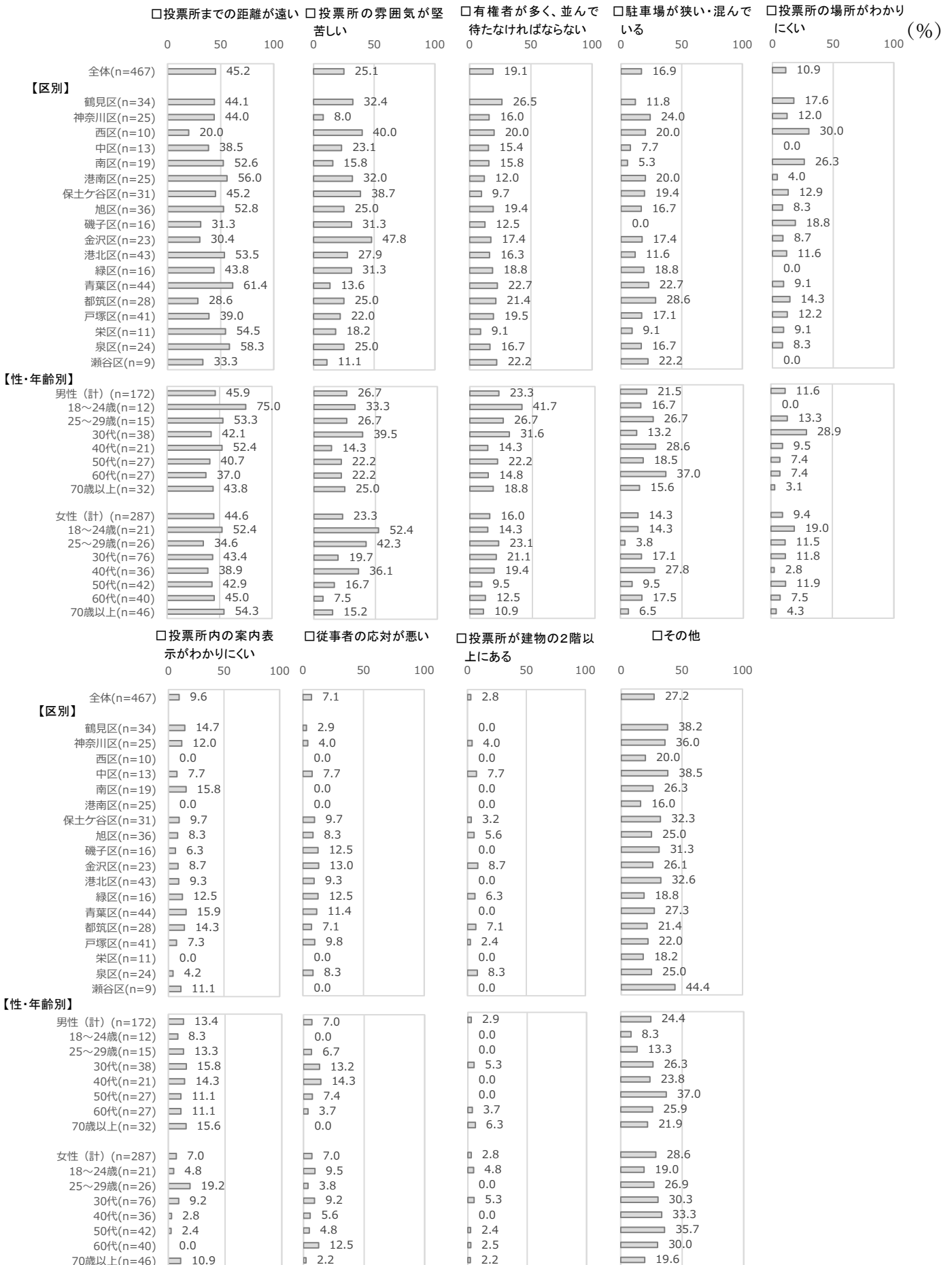


投票所の施設などについて不満が「ある」と答えた方(467人)に、不満に思うことは何か聞いたところ、「投票所までの距離が遠い」が45.2%で最も多く、次いで、「投票所の雰囲気が堅苦しい」(25.1%)、「有権者が多く、並んで待たなければならない」(19.1%)などの順となっている。

令和3年調査(第19回 市長選挙後)と比較すると、上位5項目のうち、「駐車場が狭い・混んでいる」(16.9%)のみ減少している。(図表V-6-3)

性・年齢別にみると、「投票所までの距離が遠い」は男性では「18~24歳」(75.0%)、女性では「70歳以上」(54.3%)で最も多くなっている。(図表V-6-4)

図表V-6-4 投票所施設への不満点(区別、性・年齢別)

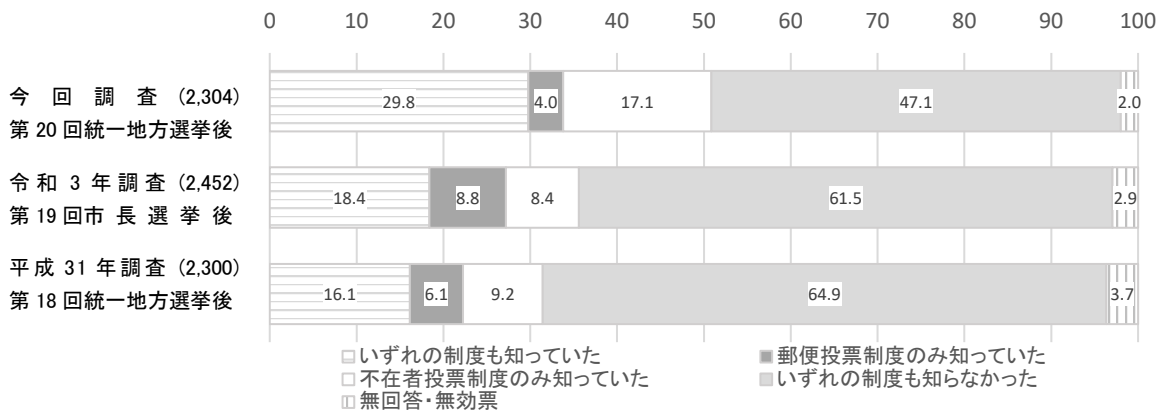


7 身体に重度の障害のある方等の郵便投票制度と病院・高齢者施設等に入院・入所している方の施設内投票制度(不在者投票制度)の認知

◇ 「いずれの制度も知っていた」は 29.8%

問16 あなたは、身体に重度の障害のある方や要介護5の方が自宅等で郵便により投票ができること(郵便投票制度)や、都道府県選挙管理委員会が指定した病院や老人ホーム等に入院、入所している方がその施設で投票ができること(不在者投票制度)をご存じでしたか。(〇は1つだけ)^{※1}

図表V-7-1 身体に重度の障害のある方等の郵便投票制度と病院・高齢者施設等に入院・入所している方の施設内投票制度(不在者投票制度)の認知 (%)

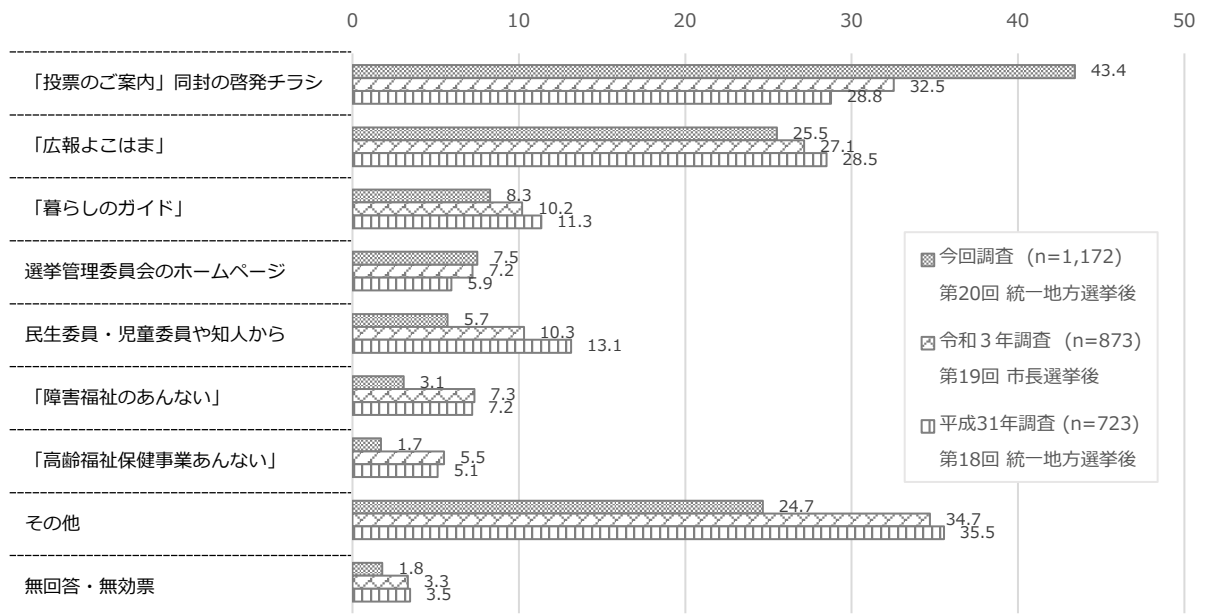


※1 以前は「郵便投票制度」と「不在者投票制度」別々に認知を聞いている

(問16で「1 いずれの制度も知っていた」「2 郵便投票制度のみ知っていた」「3 不在者投票制度のみ知っていた」とお答えの方に)

問16-1 このことを何で知りましたか。(〇はいくつでも)

図表V-7-2 身体に重度の障害のある方等の郵便投票制度と病院・高齢者施設等に入院・入所している方の施設内投票制度(不在者投票制度)の認知方法 (%)



郵便投票制度や不在者投票制度を知っているか聞いたところ、「いずれの制度も知っていた」は29.8%、「郵便投票制度のみ知っていた」は4.0%、「不在者投票制度のみ知っていた」は17.1%となっている。

令和3年調査（第19回 市長選挙後）と比較すると、「いずれの制度も知っていた」（29.8%）が前回（18.4%）より11.4ポイント増加している。（図表V-7-1）

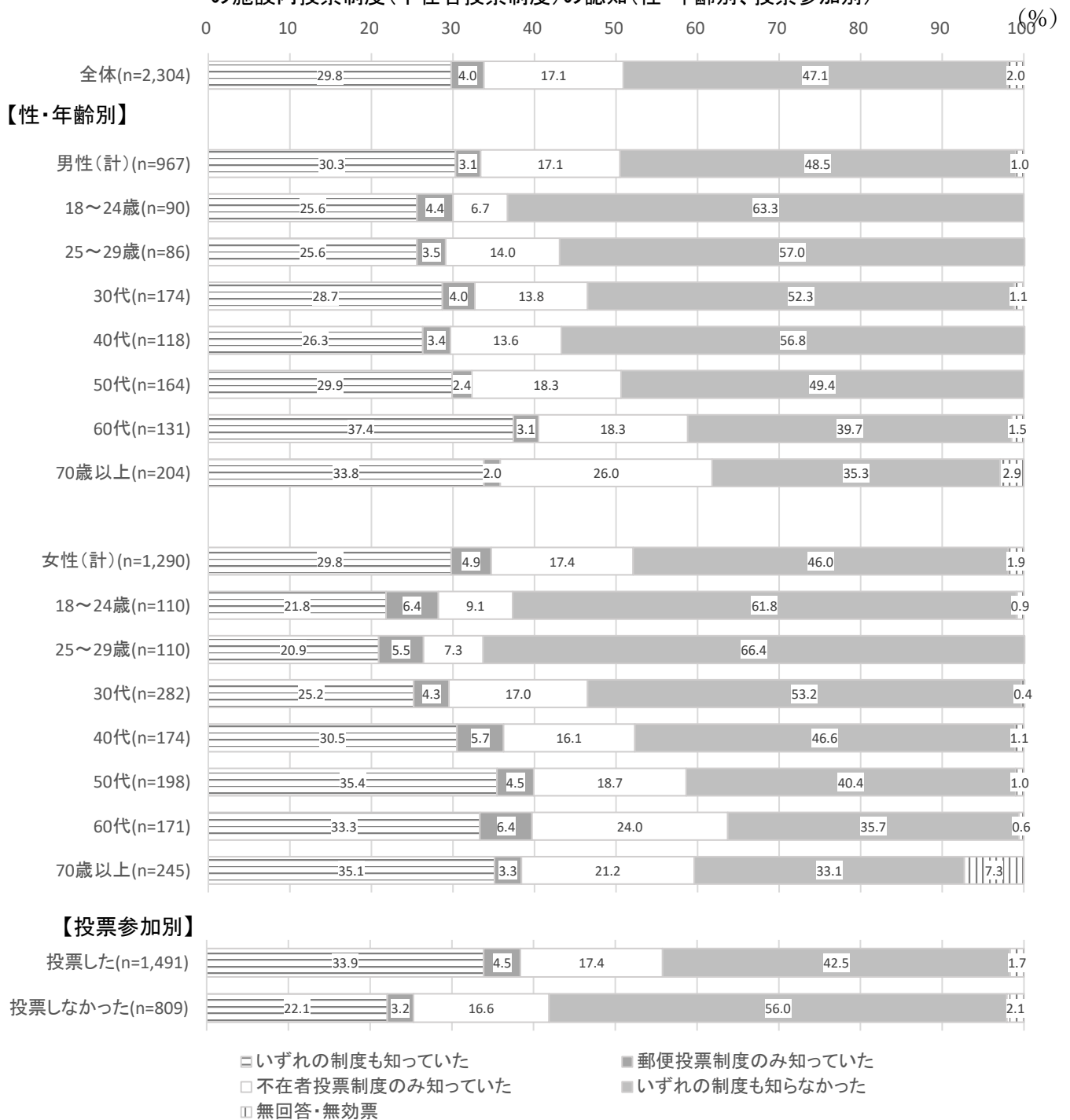
いずれかの制度について知っていたと答えた人（1,172人）に、知ったきっかけを聞いたところ、『投票のご案内』同封の啓発チラシが43.4%で最も多く、次いで、『広報よこはま』（25.5%）、『暮らしのガイド』（8.3%）などの順となっている。

令和3年調査（第19回 市長選挙後）と比較すると、上位5項目のうち、『投票のご案内』同封の啓発チラシ「選挙管理委員会のホームページ」が増加している。（図表V-7-2）

性・年齢別にみると、「いずれの制度も知らなかった」は男性では「18～24歳」（63.3%）、女性では「25～29歳」（66.4%）で最も多くなっている。（図表V-7-3）

投票参加別にみると、「いずれの制度も知っていた」は投票した人（33.9%）の方が、投票しなかった人（22.1%）より11.8ポイント高くなっている。（図表V-7-3）

図表V-7-3 身体に重度の障害のある方等の郵便投票制度と病院・高齢者施設等に入院・入所している方の施設内投票制度（不在者投票制度）の認知（性・年齢別、投票参加別）



性・年齢別にみると、「『投票のご案内』同封の啓発チラシ」は男性では「40代」(54.9%)、女性では「30代」(46.6%)で最も多くなっている。(図表V-7-4)

図表V-7-4 身体に重度の障害のある方等の郵便投票制度と病院・高齢者施設等に入院・入所している方の施設内投票制度(不在者投票制度)の認知方法(性・年齢別)

